

排水槽の底部勾配

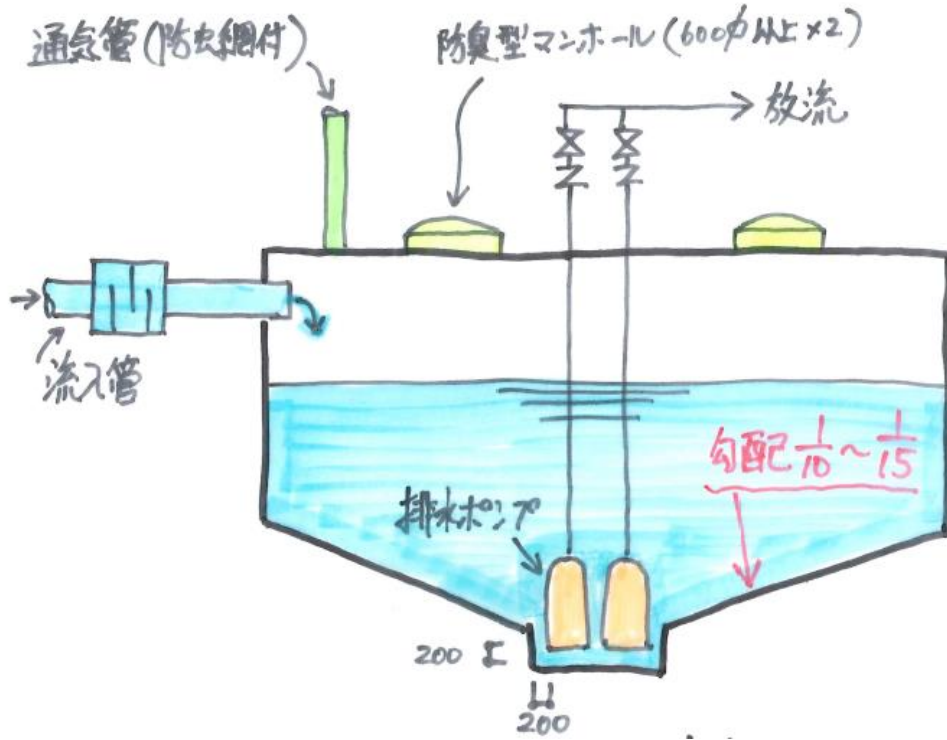


図 排水槽の底部勾配(1/10~1/15)

出題問題

平成28年度 問題15	
給排水設備に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。	
1	病院等の災害応急対策等を設けることが望ましい
2	給湯設備の転倒、移動固定等の転倒防止の措置を講じる
3	排水槽において、排水ピットに向かって1/5以上の勾配とする
4	一般的な事務所ビルが規定による残留塩素の濃度を確保する必要がある場合は、水道法の規定による残留塩素の濃度を確保する必要がある場合は、塩素注入等を行う
<p>「過去問」については、(公財)建築技術教育普及センターとの過去問の使用許諾条件により、「会員講座」のみでの公開としている。</p> <p>ここでは、参考として過去問が見れないようにしている(会員講座では全問題を公開)。</p>	
解答 (正解) 3	
○	1 病院等の災害応急対策活動に必要な施設においては、受水槽や必要な給水管分岐部に地震の感知により作動する緊急給水遮断弁(地震などで受水槽の配管が破損し受水槽の中の水の流出を防止するためのもの)を設けることが望ましい。
○	2 給湯設備の転倒、移動等による被害を防止するため、満水時の質量が15 kgを超える給湯器は、アンカーボルトによる固定等の転倒防止の措置を講じる。
×	3 排水槽の底部勾配(用語解説:13.給排水設備①排水槽の底部勾配参照)は、吸込みピットに向かって1/15以上1/10以下の下勾配とする。
○	4 受水槽の容量は、一般に、1日予想吸水量の約50%とする。災害応急対策を考慮して、受水槽の容量を1日予想給水量の2倍程度に設定する場合は、水道法の規定による残留塩素の濃度0.1mg/l以上を確保するため、塩素注入等を行う。